

大洋州からの JICA 研修員を対象に日本語授業をしました。

5 月末より大洋州諸国からの JICA 研修員が本学で研修中です。6 月 5 日と 12 日の 2 回にわたって、研修員を対象に日本語教育分野の学生が日本語レッスンを行いました。研修テーマが算数・数学教育ということ意識して活動を構成した意欲的な授業でした。以下は、授業を担当した学生の報告です。

イチ タス イチ ハ……

6 月 5 日 16 時 30 分より、フィジー、キリバス、マーシャル諸島、ミクロネシア、パラオ、パプアニューギニア、トンガ、バヌアツから研修員（専攻は数学・算数）として本学を訪れている 10 名の方々を対象に、日本語の授業を行いました。

授業は、日本語教育分野の学生 3 名（横澤・宇都宮・石川）が主導し、随時他の学生の補助が入るとい形です。

授業内容は、まずフラッシュカードを使い挨拶の練習をした後、ハンドアウトに書かれた自己紹介文のひな形を基に 1 人 1 人が、自分の名前と出身地を言っていました。次に、0~100 の数字の読み方について練習しました。中には、読み方を知っている数字もあったのと、11 からの数字の読み方については、分かりやすいように図式化したので、直ぐに読めるようになりました。最後に、+ (Tasu) - (Hiku) × (Kakeru) ÷ (Waru) = (Wa) の読み方を練習したあと、計算式を解いて読むということをしました。この場面では、(1)21+4= という表記の仕方では、Ichi kakeru ni jyuichi tasu yon wa? という意味と捉えてしまう事を発見して、私たちはとても驚きました。

上記の授業内容の他に、自分で計算式を作ってくるという宿題を出しました。

やはり、自分達の専攻に関わることである数字の授業だったためか、研修生の方々の呑み込みがとても早く、また熱心に受講していらしゃったので、私たちにとっても有意義な時間でした。

(文責：言語系 国語コース 石川紗莉)



まずはあいさつから。



次は数字の言い方を学びます。



真剣な顔で計算に取り組みます。このあと、計算式を日本語でいう練習。



お疲れさまでした。

Let's go shopping to have a party!!

6月12日(火) 16:30より大洋州研修員へ第2回目の日本語の授業を行いました。「日本語教育」について学んでいる仲間でチャレンジする、先週に続いての授業でした。

授業開始まで、あまり準備する時間もなく、もはや勢いで始めました。

最初に自己紹介タイム。前回学んだ日本語フレーズを活用し、握手をするという動作も踏まえながら行いましたが、お互いに笑顔で交流することができました。また、研修員の

ほとんどがきれいに日本語を使っていたので、おもわずビックリしました。

次に、「きらきら星」の替え歌で、日本の数字を取り入れた歌を歌いました。特に前振りもなく音楽を流し、初めの方は茫然としていた研修員ですが、だんだんリズムをつかみ、一緒に歌えるようにまでなりました。ニコニコしながら歌っていた姿が、とても印象的でした。

そして、「買い物」タイムへ。ここでは、買い物でおつりを求める計算について考えるとともに、日本で買い物をする時に使うフレーズを練習しました。おつりを求める式では、研修員の考えた式が、横並び（例： $3+3=6$ ）ではなく、筆算のような型の式で、私のイメージとちがひ、驚きでした。また、日本では、（ ）（かっこ）の計算を小学校では学習することを伝えると、興味津津な様子だったことも印象的です。さらに、買い物フレーズを練習した時には、動作つきで「いらっしやいませ」等をする、まるで会社の挨拶練習かのような状況になり、活気に満ちた場になりました。最後に、グループで順に「店員」と「客」に分かれ、実際にお店の様子を再現しましたが、一生懸命日本語を使って演じてくれていて、とても嬉しかったです。（実際に商品を研修員にプレゼントして、喜んでくれたので、なおさら・・・笑）

授業後の研修員の感想を見ると、「とても楽しかった！」「動作つきで日本語が分かりやすかった！」など、嬉しい言葉をたくさん頂き、仲間と共に頑張ったよかったです。またそれと同時に、日本語が伝わらない時に、どのようにすれば伝わるのか、分かってもらえるのかという課題にも気付かされました。学校教育でも、外国人児童生徒への日本語指導が注目されている昨今。この課題を追究し、学習者にとってのよりよい教授法を磨き、現場で実践できるような力をこれから育てていきたいと決意できた、実りある時間でした。

（ 文責：人間教育専攻 現代教育課題総合コース M2 井村寛人

